

第9章 大橋川改修事業環境調査最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正内容

環境調査最終とりまとめ作成にあたっては、一次とりまとめの内容を一部修正した。該当箇所及び修正の内容を表 9-1 に示す。

なお、表中の「該当箇所」欄の記載及び「修正の内容」欄に記載の頁・行数字は、最終とりまとめにおけるものである。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (1/27)

該当箇所		修正の内容	
第1章 1.1	1.1 主たる事業者の所在地	P1-1	下から1行目 「渡邊 茂」を「林 正道」に修正した。
第3章 3.1.2	3.1.2 気象の状況	P3-4	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。
第3章 3.1.2	3.1.2 気象の状況	P3-6	3 行目 図 3.1-5 「松江気象観測所」を「松江气象台」に修正した。
第3章 3.1.3	3.1.3 流域の社会状況	P3-8	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。
第3章 3.2.1	3.2.1 水象	P3-12	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。
第3章 3.2.2	3.2.2.1 調査状況	P3-17	「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第3章 3.2.2	3.2.2.3 塩分	P3-23	2 行目 「図 3.2-12～図 3.2-14」を「図 3.2-15～図 3.2-18」に修正した。
第3章 3.2.2	3.2.2.5 富栄養化	P3-29	3 行目 「平成 18 が」を「平成 18 年が」に修正した。
第3章 3.2.3	3.2.3 底質	P3-31	「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-38	14 行目 「魚類 17 種」を「魚類 18 種」に、15 行目の「227 種」を「228 種」に修正した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-39	表 3.3-7 「魚類」の「宍道湖」の①欄の「15 種」を「16 種」に、②欄の「14 種」を「15 種」に修正した。「中海」の①欄の「11 種」を「12 種」に、②欄の「8 種」を「9 種」に修正した。 同表 「合計」の「宍道湖」の①欄の「148 種」を「149 種」に、②欄の「100 種」を「101 種」に修正した。「中海」の①欄の「169 種」を「170 種」に、②欄の「92 種」を「93 種」に修正した。 同表 「全域」の「227 種」を「228 種」に修正した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-40	表 3.3-8 (1) 「マナヅル」の「重要な種の選定根拠」の「c」に「VU」を追加した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-40	表 3.3-8 (1) 「クロヅル」の「重要な種の選定根拠」の「e」の「NT」を削除した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-42	表 3.3-8 (3) 「魚類」に「ドジョウ科」の「スジシマドジョウ小型種点小型」を追加し、現地調査の「宍道湖」及び「中海」に「○」、「重要な種の選定根拠」の「c」に「EN」、「d」に「DD」、「e」に「NT」を追加した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (2/27)

該当箇所			修正の内容
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-42	表 3.3-8 (3) 「カマキリ」を「カマキリ (アユカケ)」に修正した。
第3章 3.3.2	3.3.2 動物	P3-42	表 3.3-8 (3) 「シルビアシジミ」の「重要な種の選定根拠」の「d」に「VU」を追加した。
第3章 3.3.3	3.3.3 植物	P3-46	表 3.3-12 「ウラギク」の「重要な種の選定根拠」の「e」の「VU」を「CR+EN」に修正した。
第3章 3.3.3	3.3.3 植物	P3-46	表 3.3-12 「ヒトモトススキ」の「重要な種の選定根拠」の「d」に「NT」を追加した。
第3章 3.3.4	3.3.4 生態系	P3-48	20～21 行目 「松江市街地に位置する上流の河岸は両岸とも護岸であり植生はみられない。」を「松江市街地に位置する上流の河岸は両岸とも護岸であり植生は少ない。」に修正した。
第3章 3.3.4	3.3.4 生態系	P3-51	表 3.3-14 の「5. 中海沿岸域」の「湖岸の多くは護岸であり、植生はほとんどみられない。」を「湖岸の多くは護岸であり、植生は少ない。」に修正した。
第3章 3.3.4	3.3.4 生態系	P3-53	「承認番号 平 19 中複 第 65 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第4章 4.1.3	4.1.3 調査・予測の対象範囲	P4-7	「平 19 中複 第 64 号」を「平 20 中複 第 71 号」に、「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第4章 4.1.3	4.1.3 調査・予測の対象範囲	P4-8	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。
第4章 4.2.2	4.2.2 調査の項目	P4-32～33	「平 19 中複 第 64 号」を「平 20 中複 第 71 号」に、「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第4章 4.2.2	4.2.2 調査の項目	P4-34	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。
第4章 4.3.2	4.3.2 調査の項目	P4-51～57	「承認番号 平 19 中複 第 64 号」を「承認番号 平 20 中複 第 71 号」に更新した。 「承認番号 平 19 中複 第 65 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第5章 5.1	5.1 大橋川改修事業環境調査計画書(案)についての意見と事業者の見解	P5-1	環境調査計画書(案)について、提出された環境調査計画書(案)に関わる意見は、98 件であった。その提出された意見について、意見を項目別に分類し、意見の全文を記載し、これに対する事業者の見解を追加して修正した。
第5章 5.2	5.2 大橋川改修事業環境調査計画書(案)についての知事及び市長意見と事業者の見解	P5-41	環境調査計画書(案)について、提出された意見については、全文を記載し、これに対する事業者の見解を追加して修正した。
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-5	下から 2 行目 「美保湾及びその秋水区域」を「美保湾及びその集水区域」に修正した。
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-10 ～11	「平 19 中複 第 64 号」を「平 20 中複 第 71 号」に、「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-12	「平 19 中複 第 66 号」を「平 20 中複 第 69 号」に更新した。

9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (3/27)

該当箇所			修正の内容
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-14 ~20	表 6.1.1-6~表 6.1.1-12 「【採水・分析調査, 1/8】」を「【採水・分析調査, 1/7】」に、「【採水・分析調査, 2/8】」を「【採水・分析調査, 2/7】」に、「【採水・分析調査, 3/8】」を「【採水・分析調査, 3/7】」に、「【採水・分析調査, 5/8】」を「【採水・分析調査, 4/7】」に、「【採水・分析調査, 6/8】」を「【採水・分析調査, 5/7】」に、「【採水・分析調査, 7/8】」を「【採水・分析調査, 6/7】」に、「【採水・分析調査, 8/8】」を「【採水・分析調査, 7/7】」にそれぞれ修正した。
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-14	表 6.1.1-6 宍道湖 No.1、B (一般) 平成元年、14年、15年は「●」を「○」に、18年は「●」を「-」に、宍道湖 No.1、B (生活環境) 平成元年、14年、15年は「●」を「○」に、18年は「●」を「-」に、宍道湖 No.1、B (富栄養化) 平成元年、9年、14年、15年は「●」を「○」に、18年は「●」を「-」に、宍道湖 No.1、B (その他) 平成元年、9年、14年、16年は「●」を「○」に、15年、18年は「●」を「-」に、宍道湖 No.2、B (一般) 平成元年、9年、14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.2、B (生活環境) 平成元年、9年、14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.2、B (富栄養化) 平成14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.2、B (その他) 18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.3、B (一般) 平成元年、7年、14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.3、B (生活環境) 平成14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.3、B (富栄養化) 平成14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.3、B (その他) 平成14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.4、B (一般) 平成元年、9年、14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.4、B (生活環境) 平成14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.4、B (富栄養化) 平成14年、15年は「●」を「○」に、宍道湖 No.4、B (その他) 平成15年は「●」を「○」に、平成14年は「○」を「-」に修正した。
第6章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-15	表 6.1.1-7 宍道湖 No.5、B (一般) 平成元年、2年、3年、4年、5年、6年、7年、8年は「●」を「-」に、平成9年、10年、12年、14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.5、B (生活環境) 平成元年は「○」を「-」に、2年、3年、4年、5年、6年、7年、8年は「●」を「-」に、平成9年、14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.5、B (富栄養化) 平成元年は「△」を「-」に、2年、3年、4年、5年、6年、7年、8年は「▲」を「-」に、平成9年、14年、15年、18年は「●」を「○」に、宍道湖 No.5、B (その他) 元年、2年、3年、4年、5年、6年、7年、8年、15年、16年、17年、18年は「●」を「-」に、平成9年、10年、12年、14年は「●」を「○」に、S-7 (一般) 平成元年、5年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、18年は「○」を「-」に、S-7 (生活環境) 平成元年、5年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、18年は「○」を「-」に、S-7 (富栄養化) 平成元年、5年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、18年は「○」を「-」に、S-7 (その他) 平成元年、4年、5年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、18年は「○」を「-」に、S-8 (一般) 平成元年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、S-8 (生活環境) 平成元年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、S-8 (富栄養化) 平成元年、9年、10年、12年は「●」を「○」に、S-8 (その他) 平成元年、4年、9年、10年は「●」を「○」に、矢田、B (一般) 平成元年、18年は「●」を「○」に、矢田、B (生活環境) 平成元年、18年は「●」を「○」に、矢田、B (富栄養化) 平成元年、18年は「●」を「○」に、矢田、B (その他) 平成15年、16年、18年は「●」を「○」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (4/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-16	表 6.1.1-8 大橋川河口、B (一般) 平成元年、2 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川河口、B (生活環境) 平成元年、2 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川河口、B (富栄養化) 平成元年、2 年、18 年は「▲」を「△」に、大橋川河口、B (その他) 平成元年、2 年、13 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、14 年、15 年は「●」を「-」に、意東鼻沖、B (一般) 平成元年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、意東鼻沖、B (生活環境) 平成元年、18 年は「●」を「○」に、意東鼻沖、B (富栄養化) 平成元年、18 年は「▲」を「△」に、意東鼻沖、B (その他) 平成元年、4 年、14 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、15 年は「●」を「-」に、修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-17	表 6.1.1-9 飯梨川河口、B (一般) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、飯梨川河口、B (生活環境) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、18 年は「●」を「○」に、飯梨川河口、B (富栄養化) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、18 年は「▲」を「△」に、飯梨川河口、B (その他) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年は「●」を「○」に、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、安来港、B (一般) 平成元年、2 年、3 年、4 年、6 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、安来港、B (生活環境) 平成元年、2 年、3 年、4 年、6 年、18 年は「●」を「○」に、安来港、B (富栄養化) 平成元年、2 年、3 年、4 年、6 年、18 年は「▲」を「△」に、安来港、B (その他) 平成元年、2 年、3 年、4 年、6 年、14 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、15 年は「●」を「-」に、羽入川河口、B (一般) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、羽入川河口、B (生活環境) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、18 年は「●」を「○」に、羽入川河口、B (富栄養化) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、18 年は「▲」を「△」に、羽入川河口、B (その他) 平成元年、2 年、3 年、6 年、13 年、14 年、18 年は「●」を「○」に、15 年は「●」を「-」に、中海湖心、B (一般) 平成元年、6 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心、B (生活環境) 平成元年、6 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心、B (富栄養化) 平成元年、6 年、18 年は「▲」を「△」に、中海湖心、B (その他) 平成元年、6 年、13 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、14 年、15 年は「●」を「-」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (5/27)

該当箇所		修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-18 表 6.1.1-10 N-7 (一般) 平成 6 年、7 年、18 年は「●」を「○」に、N-7 (生活環境) 平成 6 年、7 年、18 年は「●」を「○」に、N-7 (富栄養化) 平成 6 年、7 年、18 年は「●」を「○」に、N-7 (その他) 平成 6 年、7 年、18 年は「●」を「○」に、飛行場沖 (一般) 平成元年、6 年、17 年は「●」を「○」に、18 年は「●」を「-」に、飛行場沖 (生活環境) 平成元年、6 年、17 年は「●」を「○」に、18 年は「●」を「-」に、飛行場沖 (富栄養化) 平成元年、6 年、17 年は「▲」を「△」に、18 年は「▲」を「-」に、飛行場沖 (その他) 平成元年、6 年、17 年は「●」を「○」に、18 年は「●」を「-」に、米子湾中央、C (一般) 平成 18 年は「●」を「○」に、米子湾中央、C (生活環境) 平成 18 年は「●」を「○」に、米子湾中央、C (富栄養化) 平成 18 年は「●」を「○」に、米子湾中央、C (その他) 平成 16 年～18 年は「●」を「○」に、葭津地先、C (一般) 平成 18 年は「●」を「○」に、葭津地先、C (生活環境) 平成 6 年、18 年は「●」を「○」に、葭津地先、C (富栄養化) 平成 18 年は「●」を「○」に、葭津地先、C (その他) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、渡町地先、B (一般) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、渡町地先、B (生活環境) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、渡町地先、B (その他) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-19 表 6.1.1-11 旧加茂川 (一般) 平成元年、18 年は「●」を「○」に、旧加茂川 (生活環境) 平成 18 年は「●」を「○」に、旧加茂川 (富栄養化) 平成元年、18 年は「●」を「○」に、旧加茂川 (その他) 平成 18 年は「●」を「○」に、彦名地先 (一般) 平成元年、18 年は「●」を「○」に、彦名地先 (生活環境) 平成 18 年は「●」を「○」に、彦名地先 (富栄養化) 平成元年、18 年は「●」を「○」に、彦名地先 (その他) 平成 18 年は「●」を「○」に、美保飛行場 (一般) 平成元年は「●」を「○」に、17 年は「○」を「●」に、美保飛行場 (生活環境) 平成元年は「●」を「○」に、17 年は「○」を「●」に、美保飛行場 (富栄養化) 平成元年は「●」を「○」に、17 年は「○」を「●」に、美保飛行場 (その他) 平成元年は「●」を「○」に、中浜港 (一般) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「○」に、中浜港 (生活環境) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「○」に、中浜港 (富栄養化) 平成元年は「○」を「-」に、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年は「○」を「●」に、18 年は「●」を「○」に、中浜港 (その他) 平成元年、8 年、9 年、10 年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「○」に、宮ヶ鼻沖 (一般) 平成 2 年、3 年は「●」を「○」に、宮ヶ鼻沖 (生活環境) 平成 2 年、3 年は「●」を「○」に、宮ヶ鼻沖 (富栄養化) 平成 2 年、3 年は「●」を「○」に、宮ヶ鼻沖 (その他) 平成 2 年、3 年は「●」を「○」に、西承水路 (一般) 平成 10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、西承水路 (生活環境) 平成 9 年、10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、西承水路 (富栄養化) 平成 9 年、10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、西承水路 (その他) 平成 10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、北承水路 (一般) 平成 10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、北承水路 (生活環境) 平成 10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、北承水路 (富栄養化) 平成 10 年、15 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、北承水路 (その他) 平成 10 年は「●」を「○」に、18 年は「○」を「-」に、修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (6/27)

該当箇所		修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-20 表 6.1.1-12 N-8 (一般) 平成元年、3 年、6 年、18 年は「●」を「○」に、N-8 (生活環境) 平成元年、3 年、6 年、18 年は「●」を「○」に、N-8 (富栄養化) 平成元年、3 年、6 年、18 年は「▲」を「△」に、N-8 (その他) 平成元年、3 年、6 年、18 年は「●」を「○」に、境水道中央、C (一般) 平成 13 年は「●」を「○」に、境水道中央、C (生活環境) 平成 13 年は「●」を「○」に、境水道中央、C (富栄養化) 平成 13 年は「●」を「△」に、境水道中央、C (その他) 平成 13 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、境水道出口 (一般) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「-」に、境水道出口 (生活環境) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「-」に、境水道出口 (富栄養化) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「-」に、境水道出口 (その他) 平成元年は「○」を「-」に、18 年は「●」を「-」に、M-1 (一般) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、M-1 (生活環境) 平成元年～18 年は「●」を「○」に、M-2 (一般) 平成 2 年～18 年は「●」を「○」に、M-2 (生活環境) 平成 2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、境港防波堤灯台北方 0.2km (一般) 平成 18 年は「○」を「-」に、境港防波堤灯台北方 0.2km (生活環境) 平成 18 年は「○」を「-」に、境港防波堤灯台北方 0.2km (その他) 平成 2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年は「-」を「●」に、平成 18 年は「○」を「-」に、境港市福定町地先沖合 1km (一般) 平成 18 年は「○」を「-」に、境港市福定町地先沖合 1km (生活環境) 平成 18 年は「○」を「-」に、境港市福定町地先沖合 1km (富栄養化) 平成元年は「-」を「○」に、境港市福定町地先沖合 1km (その他) 平成 2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年は「-」を「●」に、18 年は「○」を「-」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (7/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-21	表 6.1.1-13 宍道湖湖心(No.3) (水温) 平成元年、3 年、7 年、17 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心(No.3) (pH) 平成元年、3 年、7 年、15 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心(No.3) (DO) 平成元年、3 年、7 年、17 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心(No.3) (濁度) 平成元年、15 年、16 年、17 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心(No.3) (塩分) 平成元年、3 年、11 年、17 年は「●」を「○」に、平成 16 年は「○」を「●」に、松江流量局 (水温) 平成 7 年、8 年、9 年、11 年、14 年は「●」を「○」に、平成 18 年は「○」を「●」に、松江流量局 (塩分) 平成 10 年、11 年、17 年は「●」を「○」に、大橋川流動(上流) (水温) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(上流) (DO) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(上流) (塩分) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(下流) (水温) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(下流) (DO) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(下流) (塩分) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心 (水温) 平成元年、3 年、7 年、8 年、9 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心 (pH) 平成元年、3 年、7 年、8 年、9 年、12 年、13 年、14 年、15 年、17 年は「●」を「○」に、中海湖心 (DO) 平成元年、3 年、7 年、8 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心 (濁度) 平成 7 年、8 年、9 年、12 年、13 年、14 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、中海湖心 (塩分) 平成元年、3 年、7 年~18 年は「●」を「○」、米子湾 (水温) 平成 7 年、8 年、9 年、10 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、米子湾 (pH) 平成 3 年、7 年、9 年、12 年、13 年、14 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、米子湾 (DO) 平成 7 年、8 年、9 年、10 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、平成 11 年は「○」を「-」に、米子湾 (濁度) 平成 7 年、8 年、9 年、10 年、12 年、14 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、平成 11 年は「○」を「-」に、米子湾 (塩分) 平成 7 年、8 年、9 年、10 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、境水道流動 (水温) 平成 18 年は「●」を「○」に、境水道流動 (DO) 平成 17 年、18 年は「●」を「○」に、境水道流動 (塩分) 平成 17 年、18 年は「●」を「○」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-22	下から 4 行目 「○：一部の期間で調査が実施されていないことを示す。」を削除して修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (8/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-23	表 6.1.1-15 境川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、境川（出水時）平成 9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、小境川（平水時）平成 10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年は「－」を「●」に、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、小境川（出水時）平成 6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、小境町水路（平水時）平成 6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年は「●」を「－」に、伊野川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、草野川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、大野川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、大垣町水路（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、岡本川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、秋鹿川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、西長江川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、東長江川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、古曾志川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、平田船川（平水時）平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、平田船川（出水時）平成 6 年、7 年、10 年、11 年、12 年、13 年は「－」を「●」に、湯谷川（平水時）平成 9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、湯谷川（出水時）平成 7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、13 年、16 年、18 年は「－」を「●」に、北船川（平水時）平成 9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、論田川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、斐伊川（平水時）平成元年～8 年は「－」を「●」に、五右衛門川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、新右岸排水樋門（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、新三分市排水樋門（平水時）平成 6 年は「－」を「●」に、9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、それぞれ修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-23	下から 4 行目 「○：一部の期間で調査が実施されていないことを示す。」を削除して修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (9/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-24	表 6.1.1-16 庄原新田排水樋門（平水時）平成 6 年、7 年、8 年、9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、庄原新田排水樋門（出水時）平成 6 年～18 年は「●」を「－」に、新建川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、佐々布川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、宍道町水路（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、同道川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、西来待水路（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、来待川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、東来待水路（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、松暮川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、本郷川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、玉湯川（平水時）平成 9 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、玉湯川（出水時）平成 16 年、18 年は「－」を「●」に、布志名水路（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、忌部川（平水時）平成 9 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、山居川（平水時）平成 9 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、向島橋（平水時）平成 9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、大井町水路（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、意宇川（平水時）平成 5 年～8 年は「－」を「●」に、15 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、意宇川（出水時）平成 5 年、6 年、7 年、9 年、11 年、16 年、18 年は「－」を「●」に、東部浄化センター（平水時）平成 9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、東部浄化センター（出水時）平成 16 年は「－」を「●」に、市の原川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に、意東川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「－」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-24	下から 4 行目 「○：一部の期間で調査が実施されていないことを示す。」を削除して修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (10/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-25	表 6.1.1-17 羽入川（平水時）平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、羽入川（出水時）平成元年～18 年は「●」を「-」に、日白川（平水時）平成 16 年は「-」を「●」に、日白川（出水時）平成 15 年は「●」を「-」に、久白川（平水時）平成 10 年～14 年は「-」を「●」に、15 年は「●」を「-」に、久白川（出水時）平成 15 年は「●」を「-」に、田瀬川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、飯梨川（平水時）平成 5 年～8 年は「-」を「●」に、15 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、飯梨川（出水時）平成 5 年、6 年、7 年、9 年、11 年、12 年、16 年、18 年は「-」を「●」に、吉田川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、伯太川（平水時）平成 5 年～8 年は「-」を「●」に、15 年～18 年は「●」を「-」に、伯太川（出水時）平成 5 年、6 年、7 年、9 年、11 年、12 年は「-」を「●」に、木戸川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、御茶屋川（平水時）平成 16 年は「-」を「●」に、御茶屋川（出水時）平成 15 年は「●」を「-」に、四反田川（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、加茂川（平水時）平成 8 年は「-」を「●」に、15 年～18 年は「●」を「-」に、加茂川（出水時）平成 7 年～13 年は「-」を「●」に、旧加茂川（平水時）平成 5 年～8 年は「-」を「●」に、15 年～18 年は「●」を「-」に、旧加茂川（出水時）平成 6 年、7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、13 年は「-」を「●」に、自動車学校前承水路（平水時）平成 9 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、彦名承水路（平水時）平成 9 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「-」に、彦名処理地内水（平水時）平成 9 年、10 年、11 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「-」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-25	下から 4 行目 「○：一部の期間で調査が実施されていないことを示す。」を削除して修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-27	表 6.1.1-18 大橋川中流 平成 15 年「 」(空欄)を「-」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-27	表 6.1.1-18 項目の列「富栄養化湖沼項目」を「富栄養化項目」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-27	下から 4、5、7 行目 「富栄養化湖沼項目」を「富栄養化項目」に修正した。(3箇所)
第 6 章 6.1.1	6.1.1. 調査結果の概要	P6.1.1-27	下から 4 行目 「及び(3)示した」を「及び(3)に示した」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-28	表 6.1.1-19 表中の「大橋川」を下欄の「左岸・中央部・右岸」に対応するように修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-31 P6.1.1-32	下から 4 行目 「4.降水量は、Aの観測機関による調査地点は雨量を調査している。」を「4.項目「降水量」のうち調査機関Aによる調査地点では雨量として調査している。」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (11/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-31	表 6.1.1-21 木次 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、三成 (降水量) 平成 14 年、15 年は「●」を「○」に、鳥上 (降水量) 平成 14 年、15 年は「●」を「○」に、大東、A (降水量) 平成 15 年、16 年は「●」を「○」に、久野 (降水量) 平成 14 年、15 年は「●」を「○」に、鍋山 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、田井 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、吉田 (降水量) 平成 14 年、15 年、16 年は「●」を「○」に、阿井 (降水量) 平成 14 年、15 年、16 年は「●」を「○」に、大馬木 (降水量) 平成 14 年、15 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心 (No. 3) (気温) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、14 年、15 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心 (No. 3) (風速) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心 (No. 3) (日射量) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、14 年、15 年、16 年、18 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心 (No. 3) (降水量) 平成元年は「●」を「-」に、7 年、18 年は「●」を「○」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-32	表 6.1.1-22 松江、B (気温) 平成 16 年は「●」を「○」に、松江、B (湿度) 平成 6 年、9 年、10 年、11 年、12 年は「●」を「○」に、松江、B (雲量) 平成 18 年は「●」を「○」に、平田 (風速) 平成 4 年、7 年、10 年、12 年、13 年、15 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、平田 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、大谷 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、玉湯 (降水量) 平成 3 年、4 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、東 (降水量) 平成 2 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年は「○」を「●」に、鹿島 (降水量) 平成 5 年、6 年は「●」を「○」に、中海湖心 (気温) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、9 年、11 年、16 年は「●」を「○」に、中海湖心 (風速) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、9 年、11 年、17 年は「●」を「○」に、中海湖心 (日射量) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、9 年、10 年、11 年、16 年は「●」を「○」に、中海湖心 (降水量) 平成 10 年、17 年は「●」を「○」に、米子湾 (風速) 平成元年、2 年、4 年、6 年、9 年、11 年、17 年は「-」を「○」に、3 年、7 年、8 年、10 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年は「-」を「●」に、枕木山 (降水量) 平成 15 年、17 年は「●」を「○」に、広瀬 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、上口 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、赤屋 (降水量) 平成 15 年は「●」を「○」に、境 (気温) 平成 10 年、15 年、16 年は「●」を「○」に、境 (風速) 平成 10 年、11 年、12 年、14 年、15 年、16 年、17 年は「●」を「○」に、境 (湿度) 平成 6 年、10 年、11 年、15 年、16 年は「●」を「○」に、米子 (風速) 平成 9 年、18 年は「●」を「○」に、米子 (湿度) 平成 4 年は「●」を「○」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (12/27)

該当箇所		修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-33 表 6.1.1-23 灘分、A (流量) 平成 2 年、3 年、14 年、17 年は「●」を「○」に、灘分、A (水位) 平成 2 年、3 年、14 年、17 年は「●」を「○」に、大津、A (流量) 平成 3 年、5 年、8 年、9 年は「●」を「○」に、大津、A (水位) 平成 3 年、5 年、8 年、9 年は「●」を「○」に、新伊萱、A (流量) 平成 12 年は「●」を「○」に、新伊萱、A (水位) 平成 12 年は「●」を「○」に、上島、A (流量) 平成元年、3 年は「●」を「○」に、上島、A (水位) 平成元年、3 年は「●」を「○」に、木次、A (流量) 平成 10 年、12 年は「●」を「○」に、木次、A (水位) 平成 10 年、12 年は「●」を「○」に、三刀屋、A (流量) 平成 6 年、18 年は「●」を「○」に、三刀屋、A (水位) 平成 6 年、18 年は「●」を「○」に、町上、A (流量) 平成 4 年、10 年、12 年、18 年は「●」を「○」に、町上、A (水位) 平成 4 年、10 年、12 年、18 年は「●」を「○」に、松江流量局、A (流量) 平成 17 年は「●」を「○」に、松江流量局、A (水位) 平成 17 年は「●」を「○」に、大橋川流動(上流)、A (流量) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(上流)、A (水位) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(下流)、A (流量) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、大橋川流動(下流)、A (水位) 平成 16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、布部ダム、B (流入量) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、13 年、18 年は「●」を「○」に、布部ダム、B (放流量) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、13 年、18 年は「●」を「○」に、山佐ダム、B (放流量) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、13 年、18 年は「●」を「○」に、境水道流動 (流量) 平成 17 年、18 年は「●」を「○」に、境水道流動 (水位) 平成 17 年、18 年は「●」を「○」に、東、A (水位) 平成元年、2 年、3 年、4 年、6 年、7 年、10 年、15 年は「●」を「○」に、来待、A (水位) 平成元年、2 年、5 年、6 年、9 年は「●」を「○」に、宍道湖湖心 (No.3)、A (水位) 平成元年、2 年、3 年、4 年は「●」を「-」に、平成 5 年、6 年、7 年、8 年、9 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、18 年は「●」を「○」に、浜佐陀、A (水位) 平成元年、7 年、8 年、9 年、10 年、11 年、13 年、14 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、白濁、A (水位) 平成元年、2 年、3 年、5 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、松江、A (水位) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、18 年は「●」を「○」に、矢田、A (水位) 平成元年、3 年、6 年、8 年、9 年、10 年、11 年、12 年、13 年、14 年、15 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、八幡、A (水位) 平成元年、2 年、3 年、4 年、5 年、6 年、9 年、10 年、11 年は「●」を「○」に、中海湖心、A (水位) 平成元年、2 年、11 年は「●」を「○」に、米子湾、A (水位) 平成元年、2 年、4 年、5 年、8 年、11 年、14 年、16 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、江島、A (水位) 平成元年、5 年、7 年、9 年、10 年、11 年、13 年、14 年は「●」を「○」に、平成 2 年、3 年、4 年は「●」を「-」に、境、C (水位) 平成元年、2 年、3 年、4 年、8 年、14 年、17 年、18 年は「●」を「○」に、美保関、A (水位) 平成元年、2 年、4 年、8 年、11 年は「●」を「○」に、それぞれ修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (13/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-33	下から 14 行目 「1.平成元年 1 月～平成 18 年 12 月の調査結果である。」を「1.平成元年～平成 18 年の調査結果である。ただし、平成元年は、4 月～12 月の調査結果を整理した。」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-106	図 6.1.1-67 凡例の描画位置を移動して修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-110	図 6.1.1-71 水温【松江】は、異常値を記録したため、欠測扱いとしてグラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-189	図 6.1.1-148 含水比【宍道湖】の H17 の「+」、「-」を削除した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-191	図 6.1.1-150 含水比【中海①】の H18 に意東、羽入、飯梨、安来、米子を追加した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-217	図 6.1.1-175 雲量は、一部 H17 年のデータを用いていたため参照元を H18 年に訂正し、修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-222	図 6.1.1-180 の水位【大橋川】の松江、矢田、水位【中海】の中海湖心、米子湾はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-223	図 6.1.1-181 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-224	図 6.1.1-182 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-225	図 6.1.1-183 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-226	図 6.1.1-184 水位【宍道湖】の浜佐陀、白潟はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-227	図 6.1.1-185 水位【大橋川】の矢田、水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-228	図 6.1.1-186 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-229	図 6.1.1-187 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-231	図 6.1.1-189 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-232	図 6.1.1-190 水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-233	図 6.1.1-191 水位【宍道湖】の宍道湖 No.3(湖心)、水位【中海】の江島はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-234	図 6.1.1-192 水位【宍道湖】の宍道湖 No.3(湖心)はデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.2 調査結果の概要	P6.1.1-235	図 6.1.1-193 全地点のデータの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1-240	表 6.1.1-37 水温の項目の「松江気象観測所」を「松江气象台」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1-240	表 6.1.1-37 塩分の項目の「34psu」を「35psu」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1-241	下から 6 行目 「流入河川それぞれは湖沼計画における流域分割 45 分割とし」を「流入河川の流域は湖沼水質保全計画における流域分割 45 分割とし」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1-243	3 行目 「低気通過等の」を「低気圧通過等の」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1-244	下から 7 行目 「夏季」を「夏期」に修正した。(2 箇所)

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (14/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 244	下から 6 行目 「内部生産に関わる」を「内部生産に係る」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 245	上から 5、6、7、10 行目 「冬季」を「冬期」に、5、10 行目 「夏季」を「夏期」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 260	図 6.1.1-214 「H6.4/1～H16.3/31」を「H6.4/1～H7.3/31」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 263	下から 5 行目 「尾原ダムと斐伊川放水路の供用し」を「尾原ダムと斐伊川放水路が供用し、」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 264	上から 6 行目 「大橋川通過水量」を「大橋川通過流量」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 280	上から 23 行目 「10 ヶ年の平均塩分」を「塩分の 10 ヶ年平均値」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 281	上から 9 行目 「10 ヶ年の平均塩分」を「塩分の 10 ヶ年平均値」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 282	上から 11 行目 「10 ヶ年の平均塩分」を「塩分の 10 ヶ年平均値」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 286	表 6.1.1-48、49 年間塩分流出量の単位を「g」を「kg」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 343	図 6.1.1-274 平成 11 年 塩分日変動図【米子湾中央】は、作図データの参照元を訂正し、グラフを修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 548～552	表 6.1.1-579、581、583、585、587、589、591、593、595、597 「下層(底上 1.0m)」を「下層(H.P.-3.5m)」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 553～557	図 6.1.1-354、355、356、357、358 「下層(底上 1.0m)」を「下層(H.P.-3.5m)」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 620	図 6.1.1-371 「【宍道湖 No.3(湖心), 上層(水深 1.0m), 月別集計, H12～H15]」を「【松江, 上層(水深 1.0m), 月別集計, H6～H11]」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 622	図 6.1.1-373 「【松江, 上層(水深 1.0m), 月別集計, H6～H11]」を「【中海湖心, 上層(水深 1.0m), 月別集計, H6～H11]」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 624	図 6.1.1-375 「【松江, 上層(水深 1.0m), 月別集計, H12～H15]」を「【米子湾中央, 上層(水深 1.0m), 月別集計, H6～H11]」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 631	上から 13～14 行目 「それぞれ 0.2μg/L の低下及び 0.4μg/L の低下」を「それぞれ 0.2μg/L の上昇及び 0.4μg/L の上昇」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 727	16 行目 「7.1mg/L であるのに」を「7.1mg/L であるのに」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 727	下から 2 行目 「下層(湖底上 1.0m)」を「底上 1.0m」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 729	12 行目 「宍道湖南岸」を「宍道湖東岸」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 729	17 行目 「図 6.1.1-469～図 6.1.1-618」を「図 6.1.1-471～図 6.1.1-620」に修正した。 下から 3 行目 「宍道湖」を「中海」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 731～733	「表 6.1.1-763」を「表 6.1.1-766」に、「表 6.1.1-764」を「表 6.1.1-767」に、「表 6.1.1-765」を「表 6.1.1-768」に、「表 6.1.1-766」を「表 6.1.1-769」に、「表 6.1.1-767」を「表 6.1.1-770」に、「表 6.1.1-768」を「表 6.1.1-771」に、「表 6.1.1-769」を「表 6.1.1-772」に、「表 6.1.1-770」を「表 6.1.1-773」に、「表 6.1.1-771」を「表 6.1.1-774」に、「表 6.1.1-772」を「表 6.1.1-775」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (15/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 736~738	「表 6.1.1-773」を「表 6.1.1-776」に、「表 6.1.1-774」を「表 6.1.1-777」に、「表 6.1.1-775」を「表 6.1.1-778」に、「表 6.1.1-776」を「表 6.1.1-779」に、「表 6.1.1-777」を「表 6.1.1-780」に、「表 6.1.1-778」を「表 6.1.1-781」に、「表 6.1.1-779」を「表 6.1.1-782」に、「表 6.1.1-780」を「表 6.1.1-783」に、「表 6.1.1-781」を「表 6.1.1-784」に、「表 6.1.1-782」を「表 6.1.1-785」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 741~747	「表 6.1.1-783」を「表 6.1.1-786」に、「表 6.1.1-784」を「表 6.1.1-787」に、「表 6.1.1-785」を「表 6.1.1-788」に、「表 6.1.1-786」を「表 6.1.1-789」に、「表 6.1.1-787」を「表 6.1.1-790」に、「表 6.1.1-788」を「表 6.1.1-791」に、「表 6.1.1-789」を「表 6.1.1-792」に、「表 6.1.1-790」を「表 6.1.1-793」に、「表 6.1.1-791」を「表 6.1.1-794」に、「表 6.1.1-792」を「表 6.1.1-795」に、「表 6.1.1-793」を「表 6.1.1-796」に、「表 6.1.1-794」を「表 6.1.1-797」に、「表 6.1.1-795」を「表 6.1.1-798」に、「表 6.1.1-796」を「表 6.1.1-799」に、「表 6.1.1-797」を「表 6.1.1-800」に、「表 6.1.1-798」を「表 6.1.1-801」に、「表 6.1.1-799」を「表 6.1.1-802」に、「表 6.1.1-800」を「表 6.1.1-803」に、「表 6.1.1-801」を「表 6.1.1-804」に、「表 6.1.1-802」を「表 6.1.1-805」に、「表 6.1.1-803」を「表 6.1.1-806」に、「表 6.1.1-804」を「表 6.1.1-807」に、「表 6.1.1-805」を「表 6.1.1-808」に、「表 6.1.1-806」を「表 6.1.1-809」に、「表 6.1.1-807」を「表 6.1.1-810」に、「表 6.1.1-808」を「表 6.1.1-811」に、「表 6.1.1-809」を「表 6.1.1-812」に、「表 6.1.1-810」を「表 6.1.1-813」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 808~809	図 6.1.1-472、473 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 811~815	図 6.1.1-475、476、477、478、479 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 818~819	図 6.1.1-482、483 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 821~825	図 6.1.1-485、486、487、488、489 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 828~829	図 6.1.1-492、493 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 831~835	図 6.1.1-495、496、497、498、499 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 841~848	図 6.1.1-505、506、507、508、509、510、511、512 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 853~872	図 6.1.1-517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 894	図 6.1.1-558 「春期 1-3 月」を「春期 4-6 月」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 898~910	図 6.1.1-562、566、570、574 「春期 7-9 月」を「春期 4-6 月」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 899~911	図 6.1.1-563、567、571、575 「夏期 1-3 月」を「夏期 7-9 月」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 921~928	図 6.1.1-585、586、587、588、589、590、591、592 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.3 予測の結果	P6.1.1- 933~952	図 6.1.1-597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616 「DO 累加日数」を「溶存酸素累加日数」に修正した。
第 6 章 6.1.1	6.1.1.4 環境保全措置の検討	P6.1.1- 984	表 6.1.1-883(3) 上から 6~7 行目、9~10 行目 「バックグラウンド後比ベ」を「バックグラウンド後と比ベ」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (16/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.2	6.1.2.2 調査結果の概要	P6.1.2-6	「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.2	6.1.2.2 調査結果の概要	P6.1.2-7	下から 5 行目 「1.5k(中央)」及び下から 3 行目の「7.0k(左右岸)」の前に「大橋川」を追加して修正した。 下から 1 行目 「6.0k」の前に「剣先川」を追加して修正した。
第 6 章 6.1.2	6.1.2.3 予測の結果	P6.1.2-10	上から 5 行目 「移動限界摩擦速度を算定における粒径は」を「移動限界摩擦速度の算定における粒径は」に修正した。
第 6 章 6.1.2	6.1.2.3 予測の結果	P6.1.2-10	下から 2 行目 「 U_{*c}^2 」を「 U_{*c} 」に修正した。
第 6 章 6.1.2	6.1.2.3 予測の結果	P6.1.2-10	表 6.1.2-2 表中参考文献の欄の「水理公式集」について年版を追加して、修正した。
第 6 章 6.1.2	6.1.2.3 予測の結果	P6.1.2-11	7 行目 「図 6.1.2-8～図 6.1.2-10」を「図 6.1.2-8 及び図 6.1.2-9」に修正した。
第 6 章 6.1.3	6.1.3.2 調査結果の概要	P6.1.3-6～8	「平 19 中複 第 64 号」を「平 20 中複 第 71 号」に、「平 19 中複 第 65 号」を「平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.3	6.1.3.2 調査結果の概要	P6.1.3-25	図 6.1.3-17 図中の雨量は参照元を松江気象台の値から米子気象台の値に訂正し、修正した。
第 6 章 6.1.3	6.1.3.3 予測の結果	P6.1.3-28	下から 9 行目 「沿岸より 200m までの」を「沿岸より 200m までの」に修正した。
第 6 章 6.1.3	6.1.3.3 予測の結果	P6.1.3-28	下から 7 行目 「可能性がある想定される。」を「可能性がある」と想定される。」に修正した。
第 6 章 6.1.3	6.1.3.3 予測の結果	P6.1.3-35	表 6.1.3-7 下から 10 行目の「年間通じて」を「年間を通じて」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-4	表 6.1.4-1(1) 「マナヅル」の「重要な種の選定根拠」の「c」に「VU」を追加した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-4	表 6.1.4-1(1) 「クロヅル」の「重要な種の選定根拠」の「e」の「NT」を削除した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-6	表 6.1.4-1(3) 「魚類」に「ドジョウ科」の「スジシマドジョウ小型種点小型」を追加し、現地調査の「宍道湖」及び「中海」に「○」、「重要な種の選定根拠」の「c」に「EN」、「d」に「DD」、「e」に「NT」を追加した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-6	表 6.1.4-1(3) 「カマキリ」を「カマキリ (アユカケ)」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-6	表 6.1.4-1(3) 「シルビアシジミ」の「重要な種の選定根拠」の「d」に「VU」を追加した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-11、 13、15、 17、19	「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分 1 地形図を複製したものである。」を「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分 1 地形図を複製したものである。」に修正した。 「承認番号 平 19 中複 第 64 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-12、 14、16、 18、20	「承認番号 平 19 中複 第 64 号」を「承認番号 平 20 中複 第 71 号」に更新した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-84	25 行目 「新津川河口」を「新建川河口」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-90	13 行目 「九州北西部。」を「九州北西部、」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-98	表 6.1.4-9 「カマキリ」を「カマキリ (アユカケ)」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.2 調査結果の概要	P6.1.4-98	表 6.1.4-9 「種名」に「スジシマドジョウ小型種点小型」、「確認年度」に「H16, H17 年度」を追加した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (17/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 106	16 行目の「南岸の嫁ヶ島」を「東岸の嫁ヶ島」に修正した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 108	1～25 行目に 「viii) スジシマドジョウ小型種点小型 ア) 重要性 スジシマドジョウ小型種点小型は、「環境省 改訂版レッドリスト (哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物 I 及び植物 II)」 ⁸³⁾ に絶滅危惧 IB 類、「改訂 しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 ⁴³⁾ に情報不足、「レッドデータブックとっとり (動物編)」 ³⁹⁾ に準絶滅危惧として掲載されている。 本種は、山陰型とも呼ばれ、兵庫県岸田川から島根県神戸川までの山陰地方中部に分布する ³⁾ 。九州西北部にも分布する ⁴³⁾ 。島根県内では県東部の海岸に近い平野部を流れる砂泥底の用水路や小河川に生息する ⁴³⁾ 。再生産が保証され個体群が維持されている生息地では、大規模な個体数変動はないと思われるが ⁵¹⁾ 、圃場整備や農業用水路の改修などにより各地で急減している ⁸³⁾ 。 イ) 生態 スジシマドジョウ小型種点小型は、主に農業用水路の砂泥底に生息するが、河川本流にも多い ³⁾ 。本型は他の型とは異なり、流程 10km 程度の小さな独立河川にも分布する ³⁾ 。 産卵期は 6～7 月である ³⁹⁾ 。田植え直後に水田に遡上して夜間に産卵する ⁵¹⁾ 。仔稚魚は 1 ヶ月間水田内にとどまる ⁵¹⁾ 。 ウ) 現地調査結果 スジシマドジョウ小型種点小型は、平成 16 年度、平成 17 年度の現地調査において確認された。 確認時期は 4 月、10 月、11 月であり、宍道湖西岸の斐伊川河口、北岸の秋鹿、中海の飯梨川河口など、いずれも河川の流入口周辺で確認された。 現地調査におけるスジシマドジョウ小型種点小型の生息状況と塩分との関係は下図に示すとおりである。」を追加した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 108	スジシマドジョウ小型種点小型の生息状況と塩分との関係図を追加した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 114	1 行目 「カマキリ」を「カマキリ (アユカケ)」に修正した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 146	10～11 行目 「「改訂 しまねレッドデータブックー島根県の絶滅のおそれのある野生動植物ー」 ⁴³⁾ に絶滅危惧 II 類、」を追加した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 2 調査結果の概要	P6. 1. 4- 189	4 行目 「宍道湖東岸の」を「宍道湖西岸の」に修正した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 3 予測の結果	P6. 1. 4- 197	11 行目 「直接改変の影響予測については」を「直接改変の影響予測にあたっては」に修正した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 3 予測の結果	P6. 1. 4- 197	20 行目 「直接改変以外の影響予測については」を「直接改変以外の影響予測にあたっては」に修正した。 21～22 行目 「大橋川改修後の水環境 (水質、底質等) の予測結果をもとに」を「「6.1.1 水質」及び「6.1.2 底質」で予測した大橋川改修後の水環境 (水質、底質等) の予測結果をもとに」に修正した。
第 6 章 6. 1. 4	6. 1. 4. 3 予測の結果	P6. 1. 4- 200 ~ 204	表 6.1.4-12(1)～(5) 表内「予測対象種」の「-」を全て「空欄」に修正した。 さらに上記修正の後、「予測対象種」の「直接改変」が「空欄」となった種については、「影響要因」の「直接改変」の「-」を「空欄」に、「予測対象種」の「直接改変以外」が「空欄」となった種については、「影響要因」の「直接改変以外」の「-」全てを「空欄」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (18/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 200~204	2 行目 「注 1)」の「★：予測対象種とする、－：予測対象としない」を「注 1) ★：予測対象とする（予測対象種の選定の考え方については p.6.1.4-197 を参照）」に修正した。 4 行目 「注 3)」の「●：予測において検討する。－：影響が想定されないため、予測において検討しない。」を「●：予測において検討する影響要因 －：予測において検討しない影響要因」に修正した。 8 行目 「注 5)」の「計 41 種」を「計 42 種」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 202	表 6.1.4-12(3) 「魚類」に「スジシマドジョウ小型種点小型」を追加し、確認状況の「宍道湖」及び「中海」に「○」、「新規追加種」に「＊」を追加した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 202	表 6.1.4-12(3) 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 207	表 6.1.4-15 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 221	1~2 行目 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 224	3~4 行目 「宍道湖では左岸や」を「宍道湖では北岸や」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 236	表 6.1.4-16 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 238	9~11 行目 「ハイロチュウヒとチュウヒは広いヨシ原や草地で採餌し、狩りをする種であり、現地調査では大橋川中の島の草地や水田及び水面上や、宍道湖の斐伊川河口付近、中海の米子水鳥公園で確認された。」を「ハイロチュウヒとチュウヒは広いヨシ原や草地で採餌し、狩りをする種であり、現地調査では、宍道湖の斐伊川河口付近、中海の米子水鳥公園で確認され、チュウヒは大橋川中の島の草地や水田及び水面上でも確認された。」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 239	表 6.1.4-18 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 242	15~16 行目 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 243	20 行目 「p.6.1.4-229」を「p.6.1.4-227」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 244	14 行目 「p.6.1.4-225~226」を「p.6.1.4-223~224」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.3 予測の結果	P6.1.4- 252	19 行目 「p.6.1.4-232~233」を「p.6.1.4-229~230」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.4 環境保全措置の 検討	P6.1.4- 254	表 6.1.4-21 「カマキリ」を「カマキリ（アユカケ）」に修正した。
第 6 章 6.1.4	6.1.4.4 環境保全措置の 検討	P6.1.4- 255	5~6 行目 「いるかどうか」を「いるか否か」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-4	表 6.1.5-1 「ウラギク」の「重要な種の選定根拠」の「e」の「VU」を「CR+EN」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-4	表 6.1.5-1 「ヒトモトススキ」の「重要な種の選定根拠」の「d」に「NT」を追加した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-6	表 6.1.5-3 「調査経路・調査地点」の「図 6.1.5-1」を「図 6.1.5-2」に修正した（2箇所）。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-6	表 6.1.5-4 「陸上植物」の「現地調査の内容」の 2 行目の「Braun-blancquet」を「Braun-Blanquet」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (19/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-7	「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 2 万 5 千分 1 地形図を複製したものである。」を「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 5 万分 1 地形図を複製したものである。」に修正した。 「承認番号 平 19 中複 第 64 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-8	「承認番号 平 19 中複 第 64 号」を「承認番号 平 20 中複 第 71 号」に更新した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-18	24 行目 「イ) 本種は」を「本種は」に、28 行目「ウ) 生態」を「イ) 生態」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-19	1 行目 「エ) 現地調査結果」を「ウ) 現地調査結果」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-19	18 行目 「平成 13 年度の」を「平成 13 年度及び 18 年度の」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-19	19 行目 の「飯梨川河口付近で」を「飯梨川河口付近及び中海南岸で」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-29	12～13 行目 「平成 14 年度及び」を「平成 14 年度、平成 16 年度及び」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.2 調査結果の概要	P6.1.5-42	12 行目 「左岸」を「西岸」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-43	11～15 行目 「直接改変の影響予測については、事業を実施する大橋川及びその周辺域(剣先川、朝酌川、大橋川湿性地)を予測地域とし、計画されている改修法線及び掘削範囲と重要な種の確認地点等を重ね合わせるにより、植物の重要な種及び群落の生育環境の変化の程度を予測した」を「直接改変の影響予測にあたっては、事業を実施する大橋川及びその周辺域(剣先川、朝酌川、大橋川湿性地)を予測地域とし、分布状況や生活史等の生態情報も考慮した上で、計画されている改修法線及び掘削範囲と重要な種の確認地点等を重ね合わせるにより、植物の重要な種及び群落の生育環境の改変の程度ならびに重要な種及び群落への影響を予測した」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-43	20 行目 「直接改変以外の影響予測については」を「直接改変以外の影響予測にあたっては」に修正した。 21～22 行目 「大橋川改修後の水環境(水質、底質等)の予測結果をもとに」を「6.1.1 水質」及び「6.1.2 底質」で予測した大橋川改修後の水環境(水質、底質等)の予測結果をもとに」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-46	表 6.1.5-11 「ウミナシフシミドロ」を「ウミフシナシミドロ」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-46	表 6.1.5-11 表内「予測対象種」の「-」を全て「空欄」に修正した。 さらに上記修正の後、「予測対象種」の「直接改変」が「空欄」となった種については、「影響要因」の「直接改変」の「-」を「空欄」に、「予測対象種」の「直接改変以外」が「空欄」となった種については、「影響要因」の「直接改変以外」の「-」全てを「空欄」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-46	2 行目 「注 1)」の「★：予測対象種とする、-：予測対象としない」を「注 1) ★：予測対象とする(予測対象種の選定の考え方については p.6.1.5-43 を参照)」に修正した。 4 行目 「注 3)」の「●：予測において検討する。 -：影響が想定されないため、予測において検討しない。」を「●：予測において検討する影響要因 -：予測において検討しない影響要因」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-51	32～33 行目 「平成 14 年度及び」を「平成 14 年度、平成 16 年度及び」に修正した。
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5-52	7 行目 「予測地域内に」を「予測地域周辺に」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (20/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.5	6.1.5.3 予測の結果	P6.1.5- 55	2 行目 「表 6.1.5-2」を「表 6.1.5-11」に修正した。 表 6.1.5-15 「ウミナシフシミドロ」を「ウミフシナシミドロ」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 5	表 6.1.6-3 「カマキリ」を「カマキリ (アユカケ)」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 12	表 6.1.6-6 「5. 中海沿岸域」の「湖岸の多くは護岸であり、植生はほとんどみられない。」を「湖岸の多くは護岸であり、植生は少ない。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 14	「承認番号 平 19 中複 第 65 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 16	表 6.1.6-7 「陸上植物」と「水生植物」の「調査すべき情報」「現地調査の内容」を追加した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 19	「承認番号 平 19 中複 第 65 号」を「承認番号 平 20 中複 第 70 号」に更新した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 39	表 6.1.6-16 「5. 中海沿岸域」の「湖岸の多くは護岸であり、植生はほとんどみられない。」を「湖岸の多くは護岸であり、植生は少ない。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 40	20 行目 「松江市街地に位置する上流の河岸は両岸とも護岸であり植生はみられない。」を「松江市街地に位置する上流の河岸は両岸とも護岸であり植生は少ない。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 48	27 行目 「南西諸島 ¹⁰⁾ に分布。」を「南西諸島 ¹⁰⁾ に分布する。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 51	29 行目 「(p. 6.1.4-109~110 参照)」を「(p. 6.1.4-110~111 参照)」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 54	7~8 行目 「あるいは腐食性 ⁹⁹⁾ 。」を「あるいは腐食性 ⁹⁹⁾ である。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 56	25 行目 「北海道から九州に分布 ³⁵⁾ 。」を「北海道から九州に分布する ³⁵⁾ 。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 63	9~10 行目 「平成 17 年 12 月から平成 19 年 3 月の調査結果を図 6.1.6-11 に示す。」を「平成 17 年 12 月から平成 19 年 3 月のヤマトシジミとホトトギスガイの分布状況調査結果を図 6.1.6-11 に示す。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 63	23~25 行目 「剣先川、朝酌川、支川では、調査期間を通して、ホトトギスガイの生息量は大橋川と比較して少ない傾向にあった。また大橋川河口からの距離が同じであっても、朝酌川より剣先川の方が少ない傾向がみられた。」を追加した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.2 調査結果の概要	P6.1.6- 66~67	p. 6.1.6-66~67 図 6.1.6-11 (3) 及び図 6.1.6-11 (4) を追加した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予測の結果	P6.1.6- 83	4 行目 「とした。」を「とし、」に修正した。 4~5 行目 「「直接改変」と「直接改変以外」に分けて影響を予測した。」を追加した。 6 行目 「注目される種 (ミサゴ、スズキ) とした。」を「注目される種としてミサゴ、スズキとした。」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (21/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予 測 の 結 果	P6.1.6- 83	8～20 行目 「予測の基本的な手法は、計画されている改修法線による生息環境の改変の程度、及び直接改変以外の影響要因（水質等の変化）による生息環境の変化の程度を踏まえ、上位性の視点から注目される種（ミサゴ、スズキ）の環境影響について、事例の引用又は解析によった。予測にあたっては、ミサゴ及びスズキの生息環境と対象事業の計画との重ね合わせ、及び餌生物である生物種の生息状況の変化の程度を勘案して予測した。なお、餌生物である生物種の生息状況の変化は、後述の典型性の予測結果を用いて予測した。」を「予測の基本的な手法は、直接改変については河道拡幅や河床掘削による生息環境の消失及び改変の程度、直接改変以外については水質等の変化による生息環境の変化の程度から、地域を特徴づける生態系への環境影響についての事例の引用又は解析によった。直接改変の影響予測にあたっては、ミサゴ及びスズキの分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、計画されている改修法線及び掘削範囲とミサゴ及びスズキの確認位置を重ね合わせることににより、ミサゴ及びスズキの生息環境の改変の程度を予測した。直接改変以外の影響予測にあたっては、ミサゴ及びスズキの分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、「6.1.1 水質」で予測した大橋川改修後の水質等の予測結果をもとに、ミサゴ及びスズキの生息環境の変化の程度及び餌生物の生息状況の変化の程度を予測した。なお、餌生物の生息状況の変化は、後述の典型性の予測結果を用いて整理した。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予 測 の 結 果	P6.1.6- 87	3 行目 「とした。」を「とし、」に修正した。 3～4 行目 「「直接改変」と「直接改変以外」に分けて影響を予測した。また、」を追加した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予 測 の 結 果	P6.1.6- 87	8～19 行目 「予測の基本的な手法を以下に示す。対象事業が生態系の典型性へ及ぼす影響要因は、「大橋川改修後」では「改修後の大橋川の存在」が考えられる。これによる影響を「直接改変」と「直接改変以外」に分け、直接改変としては河道拡幅や河床掘削による生息・生育環境の消失及び改変を扱い、直接改変以外では流動の変化に伴い生ずる水質等の変化による影響を扱った。なお、水質の変化の把握は、「6.1.1 水質」での予測結果、底質の変化の把握は、「6.1.2 底質」での予測結果を用いた。大橋川の直接改変による消失及び改変については、計画法線と典型性を現す生息・生育環境とを重ね合わせ、その消失量や消失形態から影響を予測した。また、改修後の大橋川水域の河床については、改修後の水深(断面形)と、水質及び底質の予測結果を勘案し、特にヤマトシジミとホトトギスガイに着目して予測した。」を「予測の基本的な手法は、直接改変については河道拡幅や河床掘削による生息環境の消失及び改変の程度、直接改変以外については水質等の変化による生息環境の変化の程度から、地域を特徴づける生態系への環境影響についての事例の引用又は解析によった。直接改変の影響予測にあたっては、典型性を現す種の分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、計画されている改修法線及び掘削範囲と典型性を現す種の生息・生育環境とを重ね合わせることににより、それぞれの種の消失量や消失形態から生息・生育環境の改変の程度を予測した。直接改変以外の影響予測にあたっては、典型性を現す種の分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、「6.1.1 水質」及び「6.1.2 底質」で予測した大橋川改修後の水環境（水質、底質等）の予測結果をもとに、典型性を現す種の生息・生育環境及び生息・生育状況の変化の程度を予測した。」に修正した。
6 章 6.1.6	6.1.6.3 予 測 の 結 果	P6.1.6- 101	10 行目 「両岸とも護岸であり植生はみられない。」を「両岸とも護岸であり植生は少ない。」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (22/27)

該当箇所			修正の内容
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予測の結果	P6.1.6- 118	3～6 行目 「移動性については、「季節的な移動状況」と「底生魚の稚魚の遡上状況」の 2 つの観点から予測する。予測対象とする影響要因は、「大橋川改修後」の「改修後の大橋川の存在」とした。予測対象は、季節的な移動状況については大橋川を經由して移動する魚類の代表としてサッパ、コノシロ、マハゼとし、稚魚期の遡上状況については底生魚の代表としてマハゼとした。」を「予測対象とする影響要因は、「大橋川改修後」の「改修後の大橋川の存在」とし、「直接改変」と「直接改変以外」に分けて影響を予測した。また、予測対象は、移動性を現す種として「底生魚の稚魚の遡上状況」の観点からマハゼ（稚魚）、「季節的な移動状況」の観点からマハゼ、サッパ、コノシロとした。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予測の結果	P6.1.6- 118	8～19 行目 「季節的な移動状況については、水質の変化による生息環境の変化の程度を踏まえ、移動性の視点から注目されるサッパ、コノシロ、マハゼへの環境影響について、事例の引用又は解析によった。底生魚の稚魚の遡上状況については、大橋川でのマハゼ稚魚の移動状況に注目し、改修事業による水深及び断面形状の変化の程度、及び改修事業による大橋川における流速の変化の程度を踏まえ、事例の引用又は解析によった。なお、水質及び流況の変化による、注目種の餌環境をはじめとした生息環境の変化については、典型性の予測結果を利用した。」を「予測の基本的な手法は、直接改変については河道拡幅や河床掘削による生息環境の消失及び改変の程度、直接改変以外については水質等の変化による生息環境の変化の程度から、地域を特徴づける生態系への環境影響についての事例の引用又は解析によった。直接改変の影響予測にあたっては、マハゼ（稚魚）の分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、大橋川改修後の河床掘削による水深及び断面形状の変化の程度を勘案し、マハゼをはじめとした底生魚の稚魚の遡上状況の変化の程度を予測した。直接改変以外の影響予測にあたっては、マハゼ、サッパ、コノシロの分布状況や生活史等の生態情報を考慮した上で、「6.1.1 水質」で予測した大橋川改修後の水質等の予測結果をもとに、マハゼ、サッパ、コノシロをはじめとした汽水魚や回遊魚の季節的な移動状況の変化の程度を予測した。」に修正した。
第 6 章 6.1.6	6.1.6.3 予測の結果	P6.1.6- 119	8 行目 「マハゼ稚魚の」を「マハゼ（稚魚）の」に修正した。
第 6 章 6.3.3	6.3.3 環境監視	P6.3-3	5～12 行目 「なお、対象事業が流動（塩分）を始めとする水環境や動植物及び生態系に与える影響の程度、並びに、環境保全措置の実施の内容の実現の程度についても確認しながら事業を進め、環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合は、新たな環境保全措置を含めて対策を検討していくこととする。」を「また、対象事業が流動（塩分）を始めとする水環境や動植物及び生態系に与える影響の程度、並びに、環境保全措置の実施の内容の実現の程度については、モニタリング等によって確認しながら事業を進めることとし、環境影響の程度が著しいことが予測される場合も含めて明らかとなった場合は、新たな環境保全措置を含めた対策の検討を行い、必要に応じて工事の進め方を変更するなど適切な対応を行うこととする。モニタリングは、協議会等を組織し、意見、助言を得て作成した計画に基づき実施することとする。実施にあたっては、必要に応じて関係機関等との情報の交換、共有化を図りながら効率的に行い、その結果は、広く住民に公表することとする。」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (23/27)

該当箇所			修正の内容
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-2	3、5 行目 「水環境予測モデル」を「流動・水質予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-2	6 行目 「流動モデル」を「流動予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-2	7、8 行目 「水質モデル」を「水質予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-2	7 行目 「水理学的変過程」を「水理学的変化過程」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-2	8 行目 図 1.2-1 図中の「係わる」を「係る」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-3	1 行目 「日本で第 5, 6 番目に」を「日本で第 5, 7 番目に」に修正した。
参考資料-1	1.2.1 流動予測モデルの基本的考え方	P1-4	下から 1、9、11 行目 図 1.2-3 「流動モデル」を「流動予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-5	2 行目、下から 2 行目 表 1.2-3「流動モデル」を「流動予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-5	表 1.2-3 表中の「水平流速比較して」を「水平流速に比較して」に修正した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-5	表 1.2-3 表中の「適応」を「適用」に修正した (2 箇所)。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-6	基礎式の各式に式番号を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-7	1~2 行目 「また、上式を数値モデルに適応する際にリープフロッグスキームを適応する。」を削除した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-7	8~10 行目 「KM」を「 K_W 」、「KH」を「 K_H 」、「Fs」を「 F_s 」、「Fn」を「 F_n 」、「FT」を「 F_T 」、「FS」を「 F_s 」に修正した。
参考資料-1	1.2.2 モデルの基礎式	P1-7	12 行目 「qx」を「qs」、「qy」を「qn」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-10	下から 3 行目 「水深 2~4m に躍層が存在しているおり、」を「水深 3~4m に躍層が存在している。」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-10	最終行の後に中海湖心観測所の 5 層の観測値について鉛直分布を示す図 1.2-8 を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-11 ~12	基礎式の各式に式番号を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	4 行目 「上基礎中の」を「上式中の」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	12 行目 「0.0~0.2 の値をとる」を「0.0~0.2 の値をとる」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	5 行目 変数説明の改行を修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	5~7 行目 「 ρa 」を「 ρ_a 」に、「fs」を「 f_s 」に、「 W_x, W_y 」を「 W_x, W_y 」に、「 $\rho 0$ 」を「 ρ_0 」に、「f」を「 f 」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	9 行目 「(2)~(5)」を「(2)、(3)、(5)、(6)」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	18~23 行目 「 a_r 」を「 a_r 」に、「 ϕ_y 」を「 ϕ_y 」に、「 ϕ_s 」を「 ϕ_s 」に、「 $\phi 0$ 」を「 ϕ_0 」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	下から 8 行目 「貯水池」を「湖」に修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (24/27)

該当箇所		修正の内容	
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-12	下から3~8行目 「 ΦL 」を「 Φ_L 」に、「 Φe 」を「 Φ_e 」に、「 ΦC 」を「 Φ_C 」に、「 Φra 」を「 Φ_{ra} 」に、「 Φrw 」を「 Φ_{rw} 」に、「 Φa 」を「 Φ_a 」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-13	基礎式の各式に式番号を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-13	6~15行目 「es」を「 e_s 」に、「ea」を「 e_a 」に、「Lv」を「 L_v 」に、「CW」を「 C_w 」に、「TS」を「 T_s 」に、「Ta」を「 T_a 」に修正した。
参考資料-1	1.2.4 流動計算条件	P1-13	下から1~3行目 「TW」を「 T_w 」に、「TA」を「 T_A 」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-14	3行目 「図 1.2-8~11」を「図 1.2-9~図 1.2-12」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-14	7行目〔短期的現象の検証結果〕に「平常期：H12.10/16~10/26」を追加して、修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-14	10行目〔長期的現象の検証結果〕に「平成6年：H6.4/1~H7.3/31」を追加して、修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-14	表 1.2-5 表中の「海水の塩分(35psu)を与える」の末尾に「。」を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-14	表 1.2-5 の欄外に、注として「日射量は日照時間より換算して設定した」を追加して、修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-15	「図 1.2-8」を「図 1.2-9」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-16	「図 1.2-9」を「図 1.2-10」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-17	「図 1.2-10」を「図 1.2-11」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-18	「図 1.2-11」を「図 1.2-12」に修正した。 図 1.2-12 の「洪水期」を「平水年」に修正した。 図中のデータを平成10年から平成15年に参照元を訂正し、グラフを修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-19	上から2~3行目 「水質予測モデル」を「流動予測モデル」に修正した(2箇所)。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-19	3行目 「図 1.2-12~図 1.2-13」を「図 1.2-13~図 1.2-25」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-19	上から6行目~18行目 「渇水時」を「平常時」に修正した(4箇所)。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-19	「iii) 水温」、「iv) 塩分」を「iii) 塩分」、「iv) 水温」にそれぞれ修正した。iii)水温に関する本文は「水温は、平成6年、平成15年ともに8月で最高となり、1月~2月に最低となる。最高水温は25~30℃で、最低水温は5~10℃となっている。計算結果は、8月に最高、1月~2月に最低となる季節的な変動が表現されており、中海、宍道湖の水温の年間の季節変化を良好に再現している。」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-20	「図 1.2-12」を「図 1.2-13」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-20	「渇水時」を「平常時」に修正した(2箇所)。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-21	「図 1.2-13」を「図 1.2-14」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-22	「図 1.2-14」を「図 1.2-15」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-22	「渇水時」を「平常時」に修正した(2箇所)。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (25/27)

該当箇所		修正の内容	
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-22	図 1.2-15 の説明として「※集計期間：(左図) H12.10/16～10/26、(右図) H14.8/31～9/2」を追記して、修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-23	「渇水時」を「平常時」に修正した(2箇所)。「図 1.2-15」を「図 1.2-16」に修正した。「図 1.2-16」を「図 1.2-17」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-24	「図 1.2-17」を「図 1.2-18」に修正した。「図 1.2-18」を「図 1.2-19」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-24	図 1.2-18 の「【斐伊川下流：大津】」を「【斐伊川下流：大津, H6】」に、「【宍道湖 No.3(湖心)】」(2箇所)を「【宍道湖 No.3(湖心), H6】」に修正した。図 1.2-19 の「【斐伊川下流：大津】」を「【斐伊川下流：大津, H15】」に、「【宍道湖 No.3(湖心)】」(2箇所)を「【宍道湖 No.3(湖心), H15】」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-25	「図 1.2-19」を「図 1.2-20」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-26	「図 1.2-20」を「図 1.2-21」に修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-27	図 1.2-22 宍道湖湖心水温の日変動 (H6.4/1～H7.3/31) を追加して修正した。 図 1.2-23 宍道湖湖心水温の日変動 (H15.4/1～H16.3/31) を追加して修正した。
参考資料-1	1.2.5 現況再現計算	P1-28	図 1.2-24 中海湖心水温の日変動 (H6.4/1～H7.3/31) を追加して修正した。 図 1.2-25 中海湖心水温の日変動 (H15.4/1～H16.3/31) を追加して修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-30	表 1.3-1 を「増減」、「式」及び「内容」を具体的な記述に差替えて、欄外に NL-COD, NL-O-P, NL-O-N の説明を追加して修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-31～35	基礎式の各式に式番号を追加して修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-31	2 行目 「水質の予測は、移流・拡散方程式を基礎方程式とし、これに内部生産もしくは沈降を付加し、境界条件として河川からの流入、下流端(海域)での流入出及び底質からの巻上げを考慮する。各計算項目および各項目の内部生産もしくは沈降による物質循環は表 1.3-1 に示すとおりである。」を追記し、「1」水質」を削除して、修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-31	11、18 行目 「スペース効率」を「スペース効果」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-31	下から 7 行目 「I：日射量」を「I：日射量(p1-12 における ϕ_y と同値)」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-32	9 行目 式中の δ を削除して、修正した。また、「VDP」及び「VEP」をそれぞれ「DP20」及び「EP20」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-32	下から 11 行目 式中の「VDP」を「DP20」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-32～34	式中の「 α 」を「 FP_N 」、「 β 」を「 FP_P 」、「 γ 」を「 FP_C 」、「 δ 」を「 FP_{D0} 」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデルの基本構造	P1-33	下から 4～5 行目 式に脱窒に関する項を追加して、修正した。

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (26/27)

該当箇所			修正の内容
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデル の基本構造	P1-34	下から 4~5 行目 「汚濁の予測は、移流・拡散方程式を基礎方程式とし、これに濁質の沈降を付加し、境界条件として河川からの流入、下流端（海域）での流入出及び底質からの巻上げを考慮する。」を「境界条件として河川からの流入、下流端（海域）での流入出及び底質からの巻上げを考慮する。」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデル の基本構造	P1-34	下から 2 行目 「ここに、 W_{ss} ：底質からの巻上げ濃度、 V_{ss} ：濁質の沈降速度」を「ここに、 W_{ss} ：底質からの巻上げ濃度 (p1-64~65, 式(38))、 V_{ss} ：濁質の沈降速度」に修正した。
参考資料-1	1.3.1 水質予測モデル の基本構造	P1-35	最終行の後に濁質の再現計算について、以下を追記して修正した。 「また、計算の過程では、濁質(SS)は無機として計算を行っているが、計算後にクロロフィル a による濁質を考慮している。定期観測結果によるクロロフィル a、SS から、クロロフィル a~SS 関係式を作成して、考慮している。」
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-42	表 1.3-4 で表中 L-Q 番号を追加して修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-46 ~54	図 1.3-7、12、13、15 の図をデータ参照元を訂正し、修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-56	「3)流出負荷量の各態への配分方法」と「4)配分方法の概略」を統合し再編集して修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-56	図 1.3-17 「配分方法」を「配分」に修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-57 ~58	図 1.3-18、図 1.3-19、図 1.3-20、図 1.3-21 「斐伊川の各態配分比率」につき、COD、T-N、T-P に関する配分比率図及び各態窒素の季節変化に差替えて修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-59	3 行目 「同調査では、粒子態、COD、窒素、リンの調査が実施されていないため、粒子態については、斐伊川大津地点負荷量調査結果を参考に一律に設定する。」を「同調査では、粒子態 COD、粒子態窒素、粒子態リンの調査が実施されていないため、斐伊川大津地点負荷量調査による比率を全川一律に設定して粒子態を分離し、残りを河川毎の各態比率で配分する。」に修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-59 ~60	図 1.3-22、図 1.3-23 各図に粒子態比率を追記して修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-61	図 1.3-24 説明を追記して修正した。 「以上で設定される斐伊川の流入水質を図 1.3-24、図 1.3-25 に示す。H15 においては 4~12 月の T-N が観測値より推定値が高くなる傾向を示すが、全体的には観測値を良好に再現していると考えられる。」
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-62	図 1.3-25 説明を追記して修正した。 「図 1.3-25 における総窒素は、青線が総窒素量を示し、青線から赤線間が P-N(粒子態窒素)、赤線から緑線が NL-ON(非生物体有機態窒素(溶存態))、緑線以下が TIN(溶存態無機態窒素)を示している。総リンについても同様である。なお、溶存態有機態は湖内における扱いを踏まえて NL- (非生物体) を冠した表記としている。」
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-61	図 1.3-24 説明を追記して修正した。 「以上で設定される斐伊川の流入水質を図 1.3-24、図 1.3-25 に示す。H15 においては 4~12 月の T-N が観測値より推定値が高くなる傾向を示すが、全体的には観測値を良好に再現していると考えられる。」
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-62	図 1.3-25 説明を追記して修正した。 「図 1.3-25 における総窒素は、青線が総窒素量を示し、青線から赤線間が P-N(粒子態窒素)、赤線から緑線が NL-ON(非生物体有機態窒素(溶存態))、緑線以下が TIN(溶存態無機態窒素)を示している。総リンについても同様である。なお、溶存態有機態は湖内における扱いを踏まえて NL- (非生物体) を冠した表記としている。」

表 9-1 最終とりまとめ作成にあたっての一次とりまとめ記載事項の修正の内容 (27/27)

該当箇所			修正の内容
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-63	2 行目 「本検討では、便宜上、代表粒径を変化させて SS の再現性を検討したが、実質的には各粒径区分における沈降速度の調整を行っている。本モデルでは、濁質の沈降速度の設定にストークスの式を適用しているが、同式に与える動粘性係数 (ν) の設定や濁質の形状 (ストークスの式では球体) などの仮定が実現象と乖離していたものと考えられる。なお、本検討の結果によれば、濁質の粒径区分は当初 5 区分していたが、粒径の細かい部分については十分に沈降速度を小さくする必要があり、実質的には 4 区分としても計算精度上問題ないと考えられる。」を「本モデルでは、斐伊川における調査結果の平均から以下の粒度分布を設定し、4 区分に分けて沈降速度を設定する。濁質の沈降速度の設定にストークスの式を適用しているが、同式に与える動粘性係数 (ν) の設定や濁質の形状 (ストークスの式では球体を仮定) などの仮定のため実現象と乖離が考えられるため、SS の再現性から各区分の沈降速度を設定した。」に修正した。 図 1.3-24 を表 1.3-5 に差し替えて修正した。 さらに、「5」SS の巻き上げ量」を追加した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-67	2 行目 「関わる」を「係る」に修正した。
参考資料-1	1.3.3 水質計算条件	P1-67	3 行目 「松江観測所」を「松江气象台」に修正した。
参考資料-1	1.3.4 モデルパラメータ	P1-68	表 1.3-6 で植物プランクトン備考欄に、「計算では、植物プランクトンを 4 藻類に分けて計算」を追加して、修正した。
参考資料-1	1.3.5 現況再現計算	P1-69	4 行目 「右図に」を「図 1.3-30～図 1.3-31」に修正した。
参考資料-1	1.3.5 現況再現計算	P1-72	図 1.3-32 「宍道湖の検証計算結果」を「宍道湖 No.3 (湖心) の検証計算結果」に修正した。
参考資料-1	1.3.5 現況再現計算	P1-72	図 1.3-33 「宍道湖湖心の検証計算結果」を「宍道湖 No.3 (湖心) の検証計算結果」に修正した。
参考資料-1	1.3.5 現況再現計算	P1-74	図 1.3-34 「H6.3/31」を「H7.3/31」に修正した。
参考資料-1	1.3.5 現況再現計算	P1-75	図 1.3-35 「H6.3/31」を「H16.3/31」に修正した。
参考資料-1	1.4.1 バックグラウンドとして考慮する事業	P1-80	表 1.4-1 表中の「夏季」を「夏期」に修正した。
参考資料-1	1.5.1 想定される変化	P1-82	図 1.5-1 図中の「流下時間や掃流力が変化することにより水質が変化する。」の「。」を削除して、修正した。(2箇所)
参考資料-1	1.5.2 尾原ダム建設の考慮方法	P1-84	下から 4 行目 「貯水池流動モデル」を「貯水池流動予測モデル」に修正した。
参考資料-1	1.5.2 尾原ダム建設の考慮方法	P1-84	表 1.5-1 「掛合气象台観測」を「掛合 (地域気象観測所)」に修正した。
参考資料-2	1. 各分類群の確認種一覧	P8	「魚類の確認種一覧 (1/2)」の「スジシマドジョウ小型種点小型」の「重要な種」に「★」を追加した。
参考資料-2	2. 各分類群のデータ整理結果	P64 ~ 66	「魚類のデータ整理結果 (1/6) ~ (3/6)」の「スジシマドジョウ小型種点小型」の「重要な種」に「★」を追加した。